

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3171600236		
法人名	医療法人社団 日翔会		
事業所名	グループホームいちようの木		
所在地	鳥取県日野郡日野町根雨899-1		
自己評価作成日	平成26年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/31/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=31">http://www.kaigokensaku.jp/31/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=31</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市宗像53番地446		
訪問調査日	平成26年12月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

住み慣れてこの地域で今までの生活を大切にして、寄り添いながらお客様の生活リズムにあわせ、楽しく安全に生活して頂きたいと思っております。日々の中で希望を聞き、年間行事(季節行事)やクラブ活動(料理クラブ・習字クラブ、生け花クラブ)など取り入れながら、継続的に開催し参加され楽しんでおります。地域の方々とも交流でき、地域と共に支え、馴染みの関係作りが出来るよう心がけ、地域行事に参加したり近隣のボランティアの方に来訪して頂いたりしています。又同法人のリハビリ職員や、管理栄養士の専門職による指導をうけ、リハビリ職員には、安全安楽な移乗の仕方や筋力低下防止体操等学び栄養面では、栄養士による献立指導を受けて、個別ケアに力を入れています

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームの理念である「住み慣れた地域の中での安心した暮らし、関係の継続を大事にしていく」を実践されている。地域の行事に参加されたり、地域の方を招いて収穫祭をされるなど、住み慣れた地域で暮らしていることが実感できるような暮らしを継続されている。同法人の介護老人保健施設とも隣接しており、行事等一緒に行われることもあり利用者同士の交流もある。食事も季節感があり、職員の手造りを心掛けられており、アットホームな雰囲気の中で安心した暮らしを送っている。管理者、職員は日々利用者に寄り添いながら利用者の思いを受け止めゆったりとした生活を支援されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中での安心した暮らし、関係の継続を大事にしていくことを、理念にし、日々実践に繋げている。	住み慣れた地域の中で安心した暮らし、関係の継続を大事にしていくことを理念に、利用者が住み慣れた地域にあるホームで今まで関係を継続しながらの暮らしを大切に生活されることを実践されている。新人研修では法人、グループホームの理念やケア方針である「こやまケア」を最初に学ぶ。「こやまケア」について、職員は年2回振りかえりをされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事、いちょうの木行事に参加頂き、交流を図っている。いちょうの木にきて頂ける環境づくりと町の行事に参加している。	地域の方や家族より野菜を貰われ食事に利用することもある。ホームの畑の収穫祭ではサツマイモ掘りを地域の方と一緒に楽しめました。町の行事にも参加され、馴染みの地域の方と合われ、話が出来た事を喜ばれていた。ボランティアの歌や踊りを併設の老健と一緒に観覧する事もある、敬老会の時にホームでどじょうすくい踊りを楽しめました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の参加行事の際に認知症の事について話をしている。日翔会総合福祉祭りの際にはいちょうの木も合同参加して、来られている人達と交流をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設内外の活動状況を報告し、その内容について出席者の方々に評価をもらい、ご意見や提案、助言を頂き、施設内のサービスの向上に取り組んでいる。また運営推進会議を行事の日に行い一緒に参加してもらっている。	2ヶ月に1回開催。地域代表、家族代表、町福祉保健課等が出席頂いている。ホーム行事の日で開催されており委員方にも参加頂いている。利用者の施設内外での活動状況、研修内容等報告。意見提案、助言等をサービスに活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時に役場福祉保険課の職員さんが参加して下さっており、相談等を行いながら話し合いを行なっている。	運営推進会議には福祉保健課の職員に出席頂き意見等を頂いている。日常的には、福祉保健課から情報や研修の案内等連絡がある。ホームは町の地域ケア会議に参加されおり相談、要望等話し合いが出来た。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の勉強会を行っており周知している。マニュアルを見やすい場所に置いている。施錠をしない取り組みをしている。	年1回勉強会を実施し報告書を回覧し周知されている。マニュアルは職員が見やすい場所に置いている。職員トイレに禁句集が貼ってあり、スピーチロックにも気を付けている。玄関は施錠をせず、利用者が出かけらうとされれば職員が付き添うようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人外での研修に参加したり、お客様が外泊・外出時や施設内で虐待されることがないように注意を払い、防止に努めている。法人統一研修として、法人で取組を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県からのパンフレットの地域福祉権利擁護事業や、成年後見制度について学んでいる。職員へも周知出来るよう、資料の掲示と配布を行なった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、お客様や、ご家族様に権利や義務についての説明を行なっている。また、お客様や、ご家族様の不安や疑問点については話し合いの場を設け理解、納得いただけるよう十分に説明を行なっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、意見・苦情を表示出来る場を設け、外部の方やご家族等に対して、回答を行なっている。年1回お客様、ご家族様へのアンケートを実施し改善を行い家族に回答している。アンケート回収後は施設玄関に掲示し閲覧できるようにしている	家族が面会に来られた時やケアプラン更新時に意見、要望等を聞きサービスに取り組まれる。遠方の家族には電話等で聞かれている。年1回利用者、家族にアンケートを実施され、検討、改善を行い家族に回答されている。アンケート回収後結果を玄関に掲示し、家族の方や地域の方に閲覧して頂けるようにされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務においてリーダーが職員の意見を吸い上げ月1回のユニットミーティングや職員会委員会、面接等を行い把握している。	日頃から、管理者やリーダーが各職員の意見や要望を聞くようにされており、月1回のユニットミーティングや職員会、委員会でも聞くようにされている。個人に対しては、年2回の個別面談で把握するようにされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が、個人目標計画・教育訓練計画を立て、目標が達成できるようにサポートしている。個々の努力に対しては上司がきちんと評価し、やりがいを持って仕事ができるよう心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務確認表やケアチェック表等活用して職員の力量を把握し、研修での技術や知識を学ぶ機会を設けている。法人全体の研修にもなるべく多くの職員が受講できるようにしている。資格取得に向けても、法人全体でバックアップしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の相互研修へ参加し交流を図ったり、自施設以外の職員の意見や経験を聞きケアに活かしている。また、同じ法人内で、相互研修をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設入所前には、管理者と職員にて必ず面談に伺い、お客様の今の思いを聞き、置かれている心身の状況を把握するよう努めている。また、出来る限り施設見学等もして頂き、施設の雰囲気を感じて頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入所前には、必ず面談に伺い、これまでの経緯を聞くと共に、困っている事や、不安な事も十分に聞き、今後のサービスについて一緒に話し合っている。待機期間には、定期的に連絡を取り現状を把握し、いつでも相談できる様にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に今の状況をきちんと把握し、現状で必要なサービスが何かを見極め、当施設で対応出来ない場合には、法人内外の各事業所のケアマネージャーや支援相談員と連携しながら、早急な対応が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、お客様と馴染みの関係を作り、一緒に過ごすことにより、日々の生活を共に楽しんでいる。会話の中から、不満や楽しみ昔の話を聞き、ケアに生かしている。季節行事や、日々の生活の場面において教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話・お便りにてお客様の日々の生活の様子や、職員・ご家族様のお互いの気づきや思いを伝え、ご家族様と情報を共有し、喜怒哀楽を共に出来る関係を築いている。外泊外出の支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方が来られ交流をして頂いている。誕生日の企画では、希望を取り入れその人だけの特別な機会を設けている。連絡したいとの要望があった場合には電話をかけられます。	近所の方が面会に来られ馴染みの関係が継続されている方もある。誕生日の企画でその人の希望を聞きドライブや自宅を見に行く、地域の祭りに行くなど関係の継続が行われている。家族や友人等に連絡したい要望があったときは電話をかけられ関係の継続がある。知り合いが併設のデイサービスにおられるので会いに行き交流がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士協力し、洗濯物をたたまれたり茶碗拭きをされたり、また、お客様同士の、トラブルないように職員が間に入り円滑な関係が築けるよう支援している。孤立しがちなお客様には職員が寄り添うように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に行かれても家族や親せきの方が様子をしらせてくださる。他施設に奥様が入所されており会いに行かれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い希望要望を聞きが実現できよう検討を行ない支援している。お客様の思いや希望・意向を元に、企画をたて実現することも行っている。ご家族様からも聞いたりしている	利用者との会話の中や家族の方に聴いたりしながら把握されたり、アセスメントを実施し希望、要望の検討をされ、プランにも反映されている。困難な方は家族や生活暦から把握し本人の意向に沿えるよう対応されている。	利用者の生きがいや生きる目的につながる希望や意向の把握に努められると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで得た情報を元に、日々の生活の中やご家族様や知人の面会時に話しを聞き、どのような生活をされていたのか把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方心身の状態の変化等は、記録と口頭にて申し送り把握している。お客様の要望は対応できるよう申し送りを行い、職員で検討企画に入れたりする。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様が自分らしく暮らせるよう、関係者の意見を含めて課題となる事をカンファレンスで話し合い介護計画作成に活かしている。モニタリングを行い、3ヶ月に1回ご家族様の承認を得ている。	利用者が自分らしく暮らせるよう本人、家族、職員、専門職とカンファレンスを行いプランを作成されている。モニタリングは月に1回、評価は3ヶ月に1回実施される。食事、排泄、入浴等については各チェック表があり、サービス内容の実施記録については介護記録で確認できた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康管理表、生活記録等に記入し担当者会議や、介護計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他施設に通いで来ている方が会いたいと言われ来て頂いたり、送って行く支援を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加出来るようにしている。また図書館等に出掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門外来受診をしている。また訪問診察も行う。協力病院からなので関係作りが出来る。	かかりつけ医は日野病院となっている。家族受診を基本とはしているが、家族受診時も職員が付き添い先生に説明されている。家族の都合が悪い時は職員で行っている。歯科等他科受診は家族にお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の施設の看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が生じた場合には、日頃の様子、及びサービス内容について情報提供し、安心して過ごせるよう支援している。また、入院中の面会も、職員が頻回に行い、ご家族様や、医療機関と情報交換を行い早期退院に向け支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在はターミナルは行っていない。入所時に説明をし、何かあれば協力病院に行くことはなしている	看護師は配置しない施設なので、出来る限りホームで対応されるが看取りまでは実施されていないですが、職員はホーム内で重度のケアの経験はある。法人内の研修には参加されている。入所時に説明し状態等変化があった時は協力病院に入院するようになることを話されている。希望を聞きながら、家族に特養の申し込みもしてもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修の実施と、消防署よりの、救命救急講習を実施している。自施設で受けられない場合は法人内の近隣の施設にて講習を受ける		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。災害時の対応、備蓄、避難経路も確認する。緊急連絡網にも職員間で行う。地域の訓練にも参加した。	年2回、消火・避難訓練をされており、備蓄の用意もある。又、地域の地防災訓練にも参加された。災害の対応としてホームの図面に車椅子、老人者、自立歩行の記入がしてある。	居室の入り口にも避難の対応のカードを下げるなどされると良いと思います。推進会議等で地域の方に避難時の利用者の安全確保の協力をお願いされると良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた言葉掛け、対応を行なっている。また、禁句集を作成し、プライバシーを損なうような言葉掛けはしないようにしている。申し送りの際も、お客様に聞こえない場所で行い、プライバシーの保護に努めている。	一人ひとりに合わせた言葉かけが行われている。禁句集や「こやまケア」行動指針に注意を払いプライバシーを損なうような事のないように、接し方や言葉掛けに気を使われている。申し送りの際も利用者には聞こえない場所で行われプライバシーの保護に努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の言われていることに耳を傾け聞き叶えている。入浴の準備の際、服を選んで頂く等、個々に合った支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、本人のペースを保ちながら日々生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際には、お客様に洋服を選んで頂いて、本人が気に入ったものを着用されている。外出には、お化粧品などをおしゃれを楽しまれている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニューを実施。茶碗拭き・盛り付け・台拭き・茶碗洗い等、個々のお客様の力に合わせて一緒に行なえるよう支援している。また、職員と、同じテーブルで食事をとり、会話を楽しみながら食事をしている。	手作りで季節感のある食事を提供する事に心掛けておられる。現在職員の休暇の為併設施設の厨房より副食、味噌汁が届いているが、近日手作りが再開される。お手伝いが可能な利用者には代拭き、盛り付け、茶碗洗い、茶碗拭き等をして頂いている。食事は利用者と職員が同じテーブルで一緒に会話を楽しみながら食事をされている。行事や誕生会で外出の時外食やそうめん流し等を楽しまれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し、把握を行なっている。一人ひとりの状態に合わせた食事の提供方法を考え工夫し、食事摂取量の確保が出来るよう支援している。また、水分量の少ないお客様には、飲み物の工夫をして摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへの声掛け及び誘導を行ない、食堂洗面台にて歯磨きを行っている。また、一人ひとりの口腔の状態に合わせた、歯ブラシの検討を行ない使用している。また、曜日を決め週3回、義歯をポリドントにて洗浄を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作成して、排泄パターンをつかみ、定期的にトイレ誘導を行っている。	チェック表を活用し排泄パターンを掴み定期的にトイレ誘導、排泄されている。オムツ使用の方は定期的に居室でオムツ交換をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、ココア、バナナ、麦ご飯等提供し、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様の要望を聞いて入浴して頂いている。	利用者の希望を聞きながら、週2回は入浴頂くようにされている。基本的には午後入浴となっている。同性介助の希望の方には対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の状態や、疲れ具合によって、各居室や、お客様の安らぐ場所にて休息できるよう支援している。寝付けない時には、職員が話をしたり、飲み物を用意する等の配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお客様の薬の目的・副作用・用法・用量について理解している。また、薬が変更になった場合は、申し送りしている。もし何か変りがある時には主治医に連絡し指示を仰いでいる。薬のセット配薬・服薬時は、手順を決め、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を生かし、また日課・役割となるよう支援している。また、個別に外出を行ったり、畑で収穫した芋を使い、スイートポテトづくり、クラブ活動も行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町の行事に参加をされて、近隣の方に久しぶりに会われて、喜ばれた。誕生日企画で、ドライブし、自宅に帰られた	地域のスーパーに好みの物を買って物に出かけられる方もある。ねう祭りなど地域の行事に出かけ在宅時の近隣の方に合わせ喜ばれている。天候や季節を考えホームの周りを散歩している。誕生日企画で自宅までドライブされ喜ばれた方もある。	出かける事が難しい利用者の中には、ホームで利用者の様子をより長時間見てもらうことで状態の理解を図られる事も良いと思います。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の預かりはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があれば、すぐに電話をかけることができるように対応している。また、家族や大切な方々から本人様宛に電話が掛かって来る事もあり、きちんと取次ぎを行なっている。手紙も来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気(生活感)が出せるよう、お客様が好まれるような花を飾ったり、季節感の分かる飾りつけを行い工夫している。また、食堂に居れば、家事の音、ご飯の炊ける匂いがし、時には音楽等を流している。好きな時間に自由にテレビも視聴できる。	共用空間は、温度管理や明るさも配慮されており気持ち良く過ごせる様にされていた。廊下や食堂には、利用者の作品やクリスマスの飾り付けやぬり絵があり季節が感じられた。食堂では、利用者各々がお話をされたり、パズルをされたりと思いきの楽しみ事をされていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室を昼寝場所として、休んで頂いたり、ユニットには石庭があり長いすでくつろいで頂ける様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは、今まで使用されていた馴染みの生活用品を持ち込まれている。また、ご家族様の面会時や、外泊時に、お客様の好みや馴染みの物を継続的に持ち込み、居心地の良いその人らしい居室となっている	自宅で使用されていた馴染みの椅子やお好きな本など持ち込まれていた。なるべく自宅にいる時と同じような雰囲気になるようにレイアウトを工夫されたり、整理され生活がしやすく居心地よく過ごせるように工夫されていた。。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできることは見守り支援している。張り紙や目印の工夫を行い自立支援を促している。状態が変わり混乱や失敗が生じた場合には不安材料を取り除き力を発揮できる様に支援している。		